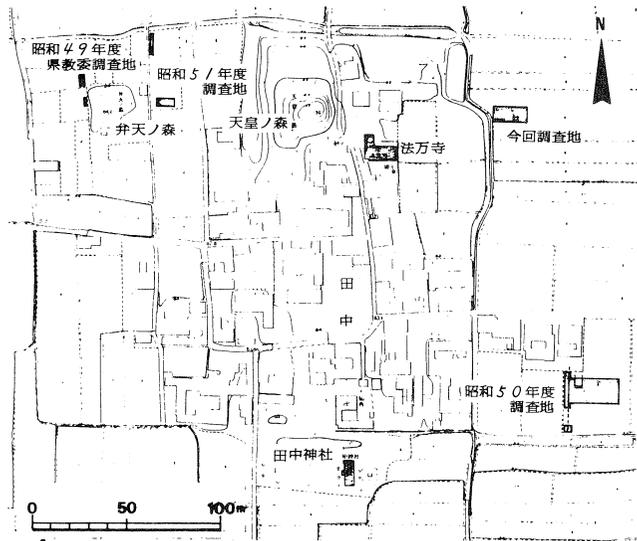


田中宮推定地の調査

(昭和54年10月)

この調査は、幼稚園建設工事に伴って実施したものである。調査地は、田中廃寺あるいは田中宮跡とも想定されている「法万寺」の東側約80mに位置し、調査直前までは水田であった。調査では、東西に長い幼稚園敷地の西端に東西約20m、南北約8mの発掘区を設定した。調査地の基本的な層序は、上から、耕土・床土・暗灰色土・暗灰色砂質土・黄褐色粘質土の順であり、遺構は黄褐色粘質土上面で検出した。調査によって検出した遺構には、井戸1基と東西・南北方向に走る小溝多数、および小穴若干数がある。このうち井戸以外の遺構は、いずれも中世以降のものである。井戸は、調査区の東南部分で検出した。径1m・深さ1.4mの円形の掘形をもち、井戸枠は認められなかった。井戸底部より、7世紀前半頃とみられる須恵器平瓶1点が出土したから、時期的に田中宮との関連を推測させる遺構であるが、詳細は不明である。

田中宮に関連した発掘調査は、これまで数回にわたって実施されているが、(地図参照)その所在なりを知る遺構の確認はない。ただ、昭和50年度の調査では、30m余にわたる南北方向の掘立柱塼と桁行3間以上・梁行2間の掘立柱建物が検出されていて、一定の成果はみられる。しかしながら、これらの調査はいずれも発掘面積が狭小で、検出遺構の性格すら考え難い欠点をもっている。今後広範囲にわたる調査が期待されるのである。



田中宮推定地周辺地形図(1:4000)